

【申請者（会社）概要】

名 称			
代表者役職	(ふりがな)		
氏 名	生年月日 年 月 日		
所 在 地	〒		
電 話 番 号		F A X 番 号	
担当者氏名			
創業／設立	年 月	資 本 金	千円
従 業 員 数	正社員： 名	パート等： 名	
業 種			
<p><会社沿革></p> <ul style="list-style-type: none"> ・創業・設立経緯及び現在までの経緯（事業転換、新事業進出等） ・昭和〇〇年〇月 創業 ・昭和〇〇年頃～ 受注の多角化（部品のユニット化） ・昭和〇〇年頃～ 〇〇製品のOEM生産開始（一貫生産体制） ・平成〇〇年 〇〇分野へ事業進出（新商品〇〇モデル生産開始） <ul style="list-style-type: none"> ・事業の内容（自社の強み、技術基盤等） ・自社で製品の開発設計ができ、量産化できる ・一貫生産体制が可能（部品調達～製品組立～出荷検査） 			

【直近3期間の財務データ】

	年 月 期 (3期前)	年 月 期 (2期前)	年 月 期 (直近期)
売 上 高(千円)			
税引後利益(千円)			
純 資 産(千円)			

【評価対象事業：】

事業化計画の概要（開発の背景と目的等）

- ・この製品は、アフターコロナを見据えた新製品であり、〇〇をする目的で、〇〇に使用される。
- ・日本の社会構造が、（新型コロナウイルス感染症や少子高齢化など）するなかで、〇〇する商品が求められており、従来使用されてきた〇〇に変わりつつある。
- ・なかでも〇〇分野においては、・・・の状況にあり、（外国製品など）も流入しつつあり、競争力のある（国産品などの）開発が急務であった。
- ・当社では、大手メーカー〇〇体制のなかで、新製品〇〇モデルの自社開発を手がけ、〇年間の期間をかけて試作品ができた。
- ・開発のポイント①従来の類似製品との差別化②コストダウン③消費者に受け入れられるデザイン性として、若手スタッフを中心に取り組んだ。

事業化をめざす元となるシーズ（技術・製品等の内容）

- ・使用目的（用途）、使用対象者等
- ・機能、効用等
- ・製品仕様と特色（小型・軽量など）

技術の先端性（従来技術・製品等との比較優位性、工業所有権等の内容）

- ①従来の類似製品との差別化
 - ・小型・軽量化し高齢者に利用しやすいものにした
 - ・〇〇センサー付きで省エネ構造により省エネ構造として・・・した使用目的
- ②コストダウン
 - ・企画、設計段階から製品の低コストを実現
- ③工業所有権を申請中

ノウハウの独自性・発展性

製造・販売方法・サービス提供方法

- ・製造
自社の新工場で一貫生産
〇〇生産部門 〇〇課 〇〇担当
- ・販売方法
〇〇チェーン加盟店ルート
商社（卸売）ルート
- ・サービス提供
〇〇チェーン加盟店
自社お客様相談室

生産・販売等計画

- ・平成〇〇年 試作品完成
- ・平成〇〇年 テスト販売 … ルート（東海地区〇〇店）
- ・平成〇〇年 量産体制構築 月産〇〇台

利益見込み等

- ・売上高
- ・製造原価 原価率〇〇%以内
- ・販売管理経費・開発経費
- ・利益見込み 売上高対最終利益率（目標）〇〇%

資金調達方法

- ・自己資金・増資等
- ・長期借入金（金融機関）

製品の市場性

対象市場の規模

- ・ ○○器具の市場規模
- ・ 業界の現況

対象市場の特色

- ・ 高齢化人口など
- ・ 家計消費動向など
- ・ 新規参入業者の状況

情報技術（IT）戦略・その他

- ・ 新規生産管理システム導入
- ・ 新規顧客管理システムの導入
- ・ クラウドファンディングの活用

添付書類

- 会社案内
- 製品（商品カタログ）
- 直近の決算書3期分及び直近の試算表
（決算期が3期に満たない場合は、決算期到来分及び直近の試算表）
- その他、貴社の活動内容又は事業内容が分かる資料